

# ブロック塀点検表

(交付申請 ・完了報告)

申請者名 **檜葉 太郎**

点検日 **令和2年7月15日**

## 点検

点検項目に従って、点検してください。基本性能値、外観係数、耐力係数、保全係数を求めましょう。

◆基本性能の点検(基本性能値)			
点検項目		基準点	評価点
建築後の年数	10年未満	10	① <b>5</b>
	10年以上、20年未満	8	
	20年以上	5	
高さの増積み	なし	10	② <b>10</b>
	あり	※	
使用状況	塀単独	10	③ <b>10</b>
	土留め、外壁等を兼ねる	0	
基礎 (塀下の擁壁を含む)	あり	良好 (丈35cm以上 根入30cm以上)	④ <b>10</b>
		根入れ深さ等不十分(確認不能)	
	なし	※	
塀の高さ	1.2m以下	15	⑤ <b>10</b>
	1.2mを越え、2.2m以下	10	
	2.2mを越える	0 ※	
塀の厚さ	15cm以上	10	⑥ <b>5</b>
	12cm	8	
	10cm	5	
透かしブロック	なし	10	⑦ <b>5</b>
	あり	5	
鉄筋	あり (9Φ以上タテヨコ共@80cm以下)	10	⑧ <b>10</b>
	なし (確認不能)	※	
控え壁・控柱・直交壁	あり (長さ3.4m以下@ 高さの1/5の突出)	10	⑨ <b>5</b>
	なし (高さ1.2m以下は無くてよい)	5	
かさ木	あり	10	⑩ <b>10</b>
	なし	5	
基本性能値(①～⑩の評価点の合計)			<b>a 80</b>
◆壁体の外観点検(外観係数)			
点検項目		基準係数	評価係数
全体の傾き	なし	1.0	⑪ <b>0.7</b>
	あり	0.7	
ひび割れ(亀裂)	なし	1.0	⑫ <b>0.7</b>
	あり	0.7	
欠け・はく離・損傷(目地割れ)	なし	1.0	⑬ <b>0.7</b>
	あり	0.7	
著しい汚れ(風化・劣化)	なし	1.0	⑭ <b>0.7</b>
	あり	0.7	
外観係数(⑪～⑭の最も小さい評価係数)			<b>b 0.7</b>
◆壁体の耐力点検(耐力係数)			
点検項目		基準係数	耐力係数
ぐらつき	動かない	1.0	c <b>0.8</b>
	わずかに動く	0.8	
	大きく動く	0.5	
◆保全状況の点検(保全係数)			
点検項目		基準係数	保全係数
補強・転倒防止対策等の有無	あり	1.5	d <b>10</b>
	なし	1.0	

注) [ ※印 ]に該当する項目がある場合の総合評点は[危険である]と判定します。

※ 1 鉄筋の有無は、感度の良い方位磁石をブロック塀に近づけたときに、針が振れることで確認できます。

2 ぐらつきは、まわりに人がいないのを十分確認して点検してください。

## 総合評点の算定

点検結果から、総合評点を求めましょう。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{基本性能値} \\ \hline \mathbf{a \ 80} \\ \hline \end{array}
 \times
 \begin{array}{|c|} \hline \text{外観係数} \\ \hline \mathbf{b \ 0.7} \\ \hline \end{array}
 \times
 \begin{array}{|c|} \hline \text{耐力係数} \\ \hline \mathbf{c \ 0.8} \\ \hline \end{array}
 \times
 \begin{array}{|c|} \hline \text{保全係数} \\ \hline \mathbf{d \ 10} \\ \hline \end{array}
 =
 \begin{array}{|c|} \hline \text{総合評点} \\ \hline \mathbf{44.8} \\ \hline \end{array}$$

※裏面に続く

## 総合評点

総合評点から、点検結果を判定しましょう。

総合評点	判定	今後の対応
70 点以上	安全と思われる	3~5 年後にまた点検しましょう
55 点以上~70 点未満	一応安全と思われる	1 年後にまた点検しましょう
40 点以上~55 点未満	注意が必要	精密点検を行い、再度判定するか、転倒防止対策等を講じましょう
40 点未満	危険である	早急に転倒防止対策を講じるか、撤去しましょう

※ 危険ブロック塀等撤去奨励補助金の交付を受ける条件である、「危険性があると認められるブロック塀等」とは、総合評点が55点未満のものです。

この「ブロック塀の点検表」は、社団法人全国建築コンクリートブロック工業会・全国コンクリートブロック工業組合連合会のパンフレットに基づいて作成しています。

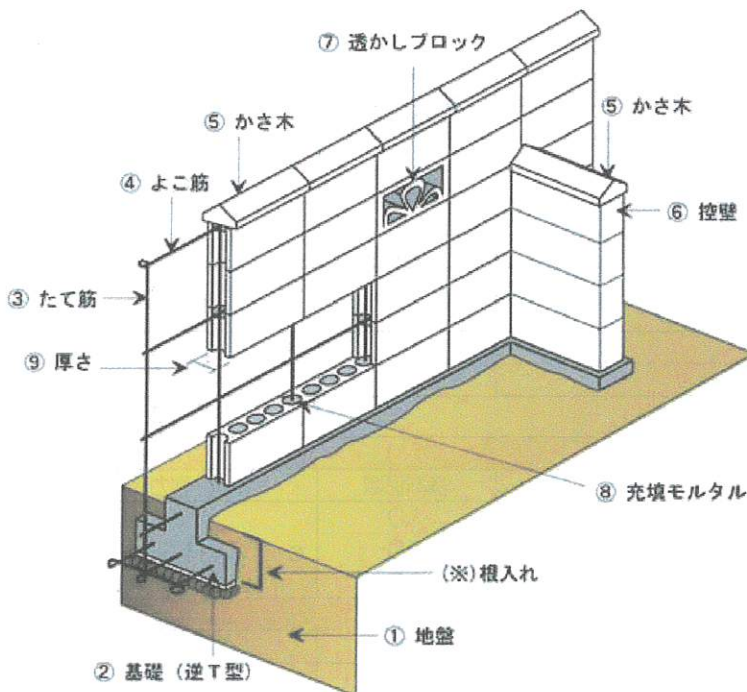
### <参考資料>

#### ブロック塀の基準

ブロック塀については建築基準法に定めがありますが、日本建築学会では建築基準法をふまえ、より細かな数値で「コンクリートブロック塀設計基準」を定めています。

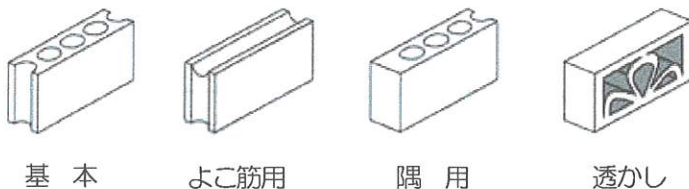
ブロック塀の基準は、日本建築学会基準を引用しています。

#### ブロック塀の仕組み



- ① 地盤：地盤は、塀全体を支え、基礎から一体となった塀の転倒に抵抗する役割を果たします。
- ② 基礎：基礎は、鉄筋コンクリートで堅固に作り、塀本体と一体とし、最低でも 35cm 以上地中に根入れ(※)して転倒しないようにします。基礎の形状は I 型のほか、抵抗力の大きな L 型、逆 T 型などがあります。
- ③ たて筋(たて方向の鉄筋)：たて筋は、横からかかる力(横に押す力)に抵抗する重要なものです。基礎としっかりつなぎましょう。
- ④ よこ筋(よこ方向の鉄筋)：よこ筋は、壁体の長さ方向を強固に一体化するもので、控壁がある場合は、特に重要な役割を果たします。
- ⑤ かさ木：塀本体へ雨水等が浸入するのを防ぎ、ブロック及び鉄筋を保護します。
- ⑥ 控壁：控壁は、塀の転倒に対する抵抗力を増すために、長さ 3.4m 以内ごとに設けます。
- ⑦ 透かしブロック：透かしブロックは、塀に表情を与えますが、透かしブロックを多用すると、壁体の強度を低下させます。できる限り使用しないようにしましょう。
- ⑧ 充填モルタル：充填モルタルは、鉄筋とブロックを一体化させるもので、強固な壁体を作るとともに、鉄筋を保護する役目を果たします。鉄筋の周辺部にモルタルがしっかりと充填されないと、塀の強度低下や劣化を早めることとなります。
- ⑨ 壁の厚さ：ブロックの厚さを言います。15cm(高さ 2.0m 以下の塀では 12cm) 以上のものを使用してください。

#### ブロックの種類



基本

よこ筋用

隅用

透かし